

令和6年9月 総務財政委員会報告資料

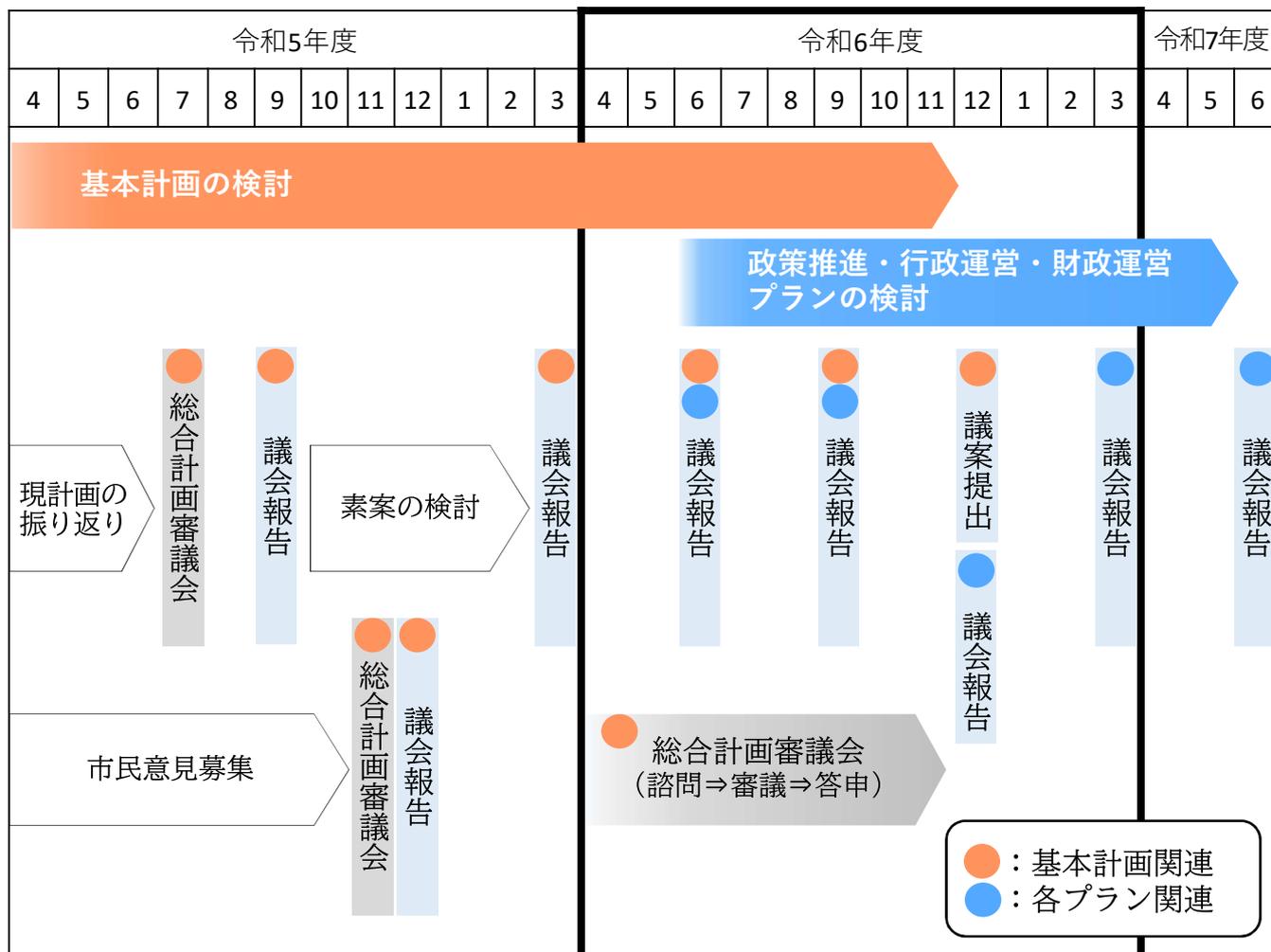
目次

- | | | |
|---|---------------------------|----|
| 1 | 第10次福岡市基本計画(原案)について | 1頁 |
| | 【別添資料1】 第10次福岡市基本計画 原案 | |
| 2 | 政策推進プラン(素案)について | 6頁 |
| | 【別添資料2】 政策推進プラン 素案 | |
| 3 | 行政運営プラン(素案)について | 8頁 |
| | 【別添資料3】 行政運営プラン 素案 | |

総務企画局

1 第10次福岡市基本計画(原案)について

(1) 全体スケジュール



(2) 総合計画審議会の開催状況

月日	審議会	主な審議内容
4月25日	総会	総論
5月23日	都市の成長部会	分野別目標
5月29日	生活の質部会	
6月27日	生活の質部会	空間構成目標 区のまちづくりの目標
7月 1日	都市の成長部会	
7月22日	都市の成長部会	指標設定の方向性
7月24日	生活の質部会	
8月20日	総会	原案

(3) 計画期間(目標年次)

2025年度(令和7年度)から2034年度(令和16年度)までの10年間

(4) 都市経営の基本戦略

① 生活の質の向上と都市の成長の持続的な好循環を創り出す

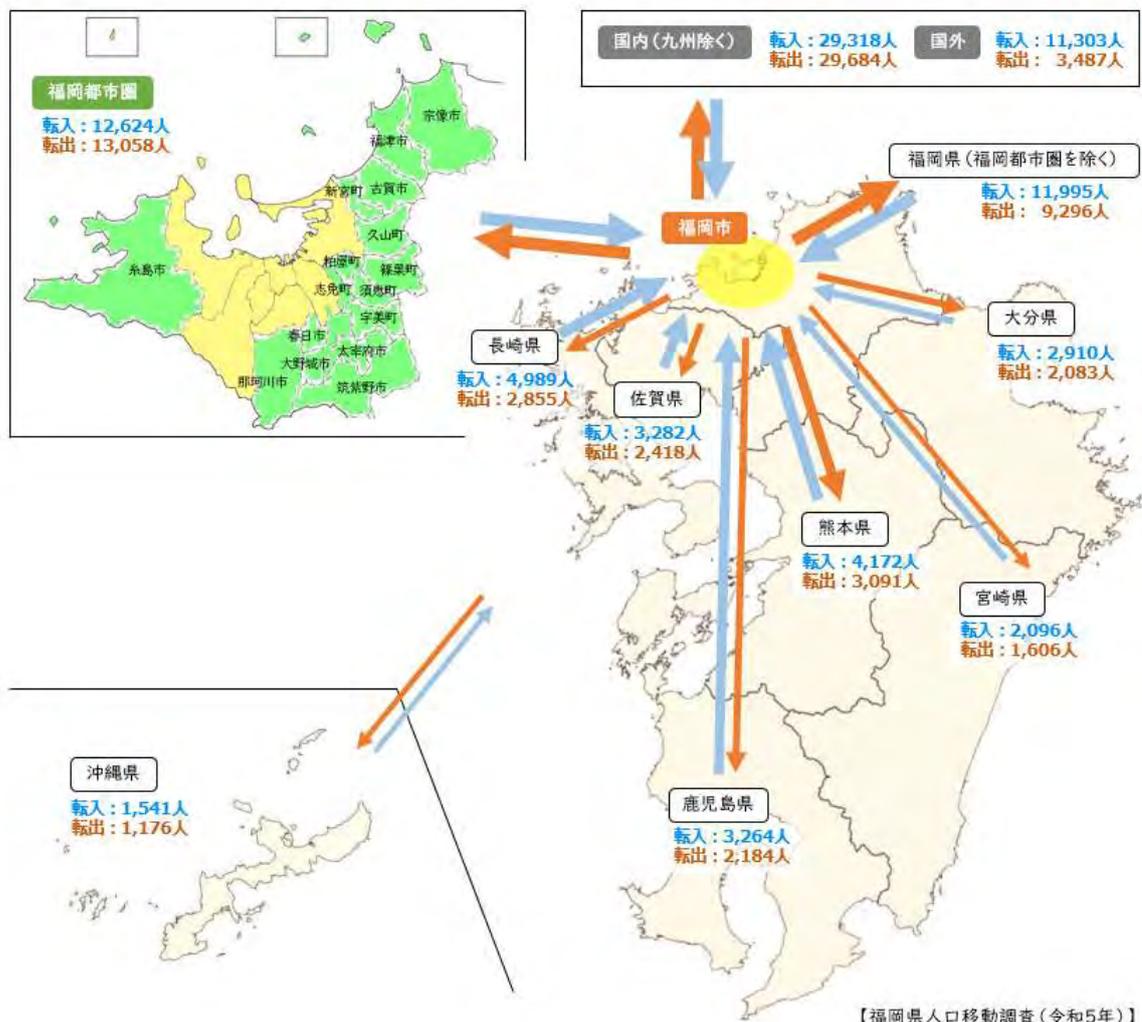
福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動を呼び込むことで都市が成長し、その成長の果実によりさらに生活の質を高めていくという好循環を持続可能なものとしていく。

② 多様な人材が育ち、集い、チャレンジできる環境をつくる

様々な人達が出会い、交流してきた地理的・歴史的な背景や、大学などの高度な教育・研究機能の集積など、福岡市の個性や強みを活かすことにより、多様な人材が育ち、国内外から集い、互いに交流しながら、誰もが様々な分野で将来に向かってチャレンジできる環境をつくる。

③ 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

生活圏・経済圏が一体化した福岡都市圏では、これまで交通、水、医療・福祉、環境、消防などの都市圏に共通する課題と一緒に取り組んできた。今後も連携を一層深めるとともに、九州・日本・アジアとの関係においても、広域的な役割を担っていく。



(5) 計画推進にあたっての基本的な考え方

① 行政運営の基本的な方針

ア 市民、地域、NPO、企業、大学など多様な主体との共創・共働を進める。

イ 歳入の積極的な確保や、施策・事業の重点化、アセットマネジメントの推進、行政運営の効率化などにより、持続可能な行財政運営に努める。

ウ 時代に合った柔軟で果敢にチャレンジする組織づくり

(ア) 社会経済情勢の変化等に対応できる組織運営体制の構築及び区役所の機能強化を進める。

(イ) 新しいことに果敢に挑戦し、職員の力を組織の力として最大限発揮する組織づくりを進める。

エ 最先端技術の積極的な活用や、データに基づいた政策立案等により、市民の利便性向上や業務の効率化を推進する。

オ 福岡都市圏や九州各都市との連携・協力を推進する。

② 計画の着実な推進

政策推進プランで具体的な事業を示すとともに、毎年度の予算編成でその必要性や緊急性を検討しながら実施事業の予算化を行うことで、社会経済情勢の変化や不測の事態にも的確に対応する。また、計画の進行管理として、基本計画の分野別目標ごとに市民意識の推移を把握・公表するとともに、政策推進プランの中で各事業の進捗状況を定性的、定量的に評価し、PDCAサイクルを回していく。

(6) 分野別目標

分野別目標	施策
①一人ひとりが心豊かに暮らし、自分らしく輝いている	1-1 多様な市民が輝くユニバーサル都市・福岡の推進 1-2 一人ひとりが健やかで心豊かに暮らせる社会づくり 1-3 すべての人が安心して暮らせる福祉の充実
②すべての子ども・若者が夢を描きながら健やかに成長している	2-1 社会全体で子どもを見守り、子どもを望む人が安心して生み育てられる環境づくり 2-2 困難を抱える子どもや若者を支え、誰もが健やかに成長できる社会づくり 2-3 自ら学び続け、他者を尊重し、協働できる子どもの育成 2-4 将来に夢や希望を抱き、意欲と志を持ってチャレンジする人材の育成
③地域の人々がつながり、支え合い、安全・安心に暮らしている	3-1 つながりと支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化 3-2 生活の利便性が確保された地域のまちづくり 3-3 安全で快適な生活基盤の整備と災害に強いまちづくり 3-4 日常生活における安全・安心の確保と地域福祉の推進
④人と自然が共生し、身近に潤いと安らぎが感じられる	4-1 都市と自然が調和したコンパクトで個性豊かなまちづくり 4-2 花や緑などによる潤いや安らぎを感じるまちづくり 4-3 持続可能で未来につながる脱炭素社会の実現 4-4 循環経済の確立に向けた資源循環等の推進
⑤磨かれた魅力に人々が集い、活気に満ちている	5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進 5-2 博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興 5-3 交流がビジネスを生むMICEの受入環境の形成 5-4 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり

分野別目標	施策
⑥都市機能が充実し、多くの人や企業から選ばれている	6-1 都市活力を牽引する都心部の機能強化と魅力向上 6-2 様々な都市機能が集積した魅力・活力創造拠点づくり 6-3 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築 6-4 成長分野の企業や本社機能の立地の促進
⑦チャレンジ精神と新たな価値の創造により、地域経済が活性化している	7-1 地場中小企業の競争力強化などによる地域経済の活性化 7-2 農林水産業とその関連ビジネスの振興 7-3 新たな価値の創造とスタートアップ都市づくり 7-4 産学官民が連携した知識創造型産業などの振興
⑧アジアのモデル都市として世界とつながり、国際的な存在感がある	8-1 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり 8-2 国際的なビジネス交流の促進とグローバル人材にも住みやすいまちづくり 8-3 国際貢献・国際協力の推進と国際会議の誘致

(7) 空間構成目標

拠点等	めざす姿
都心部	○都市活力の中心及び国際交流のゲートウェイとして、国際競争力を備えた商業・業務、観光・MICE、文化、港湾など高度な都市機能、広域交通機能が集積 ○水辺や通り、広場には、花や緑、文化芸術などがあり、多様な人と企業が集積・交流
地域の拠点	○東部・南部・西部の「広域拠点」は、交通結節機能の高さを生かし、都市活力を担いつつ、広範な生活圏域の中心として、商業・業務機能や市民サービス機能など諸機能が集積 ○「地域拠点」は、区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能や市民サービス機能など諸機能が集積
日常生活圏	○公民館を拠点として、自治協議会を中心に地域コミュニティが形成される日常生活圏では、市民の良好な居住環境と日常生活に必要な基本的な生活利便性が確保
魅力・活力創造拠点	○アイランドシティは、豊かな自然に恵まれ、環境に配慮した先進的モデル都市及びコンテナターミナルと一体となった国際物流拠点を形成 ○九州大学箱崎キャンパス跡地は、多様な都市機能やゆとりある空間、先端技術の導入などにより、快適で質の高いライフスタイルを創出 ○舞鶴公園・大濠公園地区は、都心部に近接した貴重な緑地空間として、市民の憩いの場となり、歴史資源を生かし、文化芸術と融合した観光・交流拠点を形成 ○シーサイドももちは、情報関連産業の集積拠点となり、文化・エンターテインメントなどの既存資源を活かした観光・MICEの拠点を形成 ○九州大学伊都キャンパス及びその周辺は、九州大学学術研究都市の核として、新たな知を創造、発信する研究開発拠点となり、新たなビジネスやイノベーションの創出拠点を形成
農山漁村地域	○農林水産業の営みや既存集落が維持・活性化されるとともに、美しい自然景観を生かした市民や観光客の憩いの場になり、豊かな自然環境が市民の財産として継承
交通ネットワーク	○陸海空の広域交通ネットワークを備える都心部を中心に、それぞれの拠点間は公共交通機関でネットワークされ、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保

(8) 区のまちづくりの目標

区	特徴的な課題、取組みの方向性
東	<ul style="list-style-type: none"> ○7区最大の人口を有する一方、地域によっては人口が減少しており、それぞれの地域の実情に応じて、生活交通の確保など、きめ細かな支援を進める。 ○豊かな自然、歴史、文化芸術を東区の魅力として磨き上げ、住む人が愛着を持ち、多くの人々が訪れる賑わいのあるまちづくりを進める。
博多	<ul style="list-style-type: none"> ○単身世帯や転入者が多い特徴を踏まえ、高齢者や子育て世帯などの孤立を防ぎ、誰一人取り残さない福祉サービスの充実を図る。 ○神社仏閣などの魅力発信や、伝統行事の振興・継承を図るとともに、経済活動の活性化、都市機能の充実等により、住み続けたいと思えるまちづくりを進める。
中央	<ul style="list-style-type: none"> ○共同住宅、単身世帯の割合が高く、転出入も多いため、地域コミュニティの希薄化等が課題となっており、それぞれの地域の課題に応じたきめ細かな支援を行う。 ○都心部の賑わいや屋台などの食文化、多様な施設などの魅力を生かし、個性があふれ、多くの人々が住み、働き、訪れたいまちを目指す。
南	<ul style="list-style-type: none"> ○夜間人口が多い「くらしのまち」で、西部・南部地域を中心に高齢化が進んでおり、地域コミュニティへの支援や公共交通機関の利便性向上などに取り組む。 ○大学・短大などの多様な主体、油山や那珂川、鴻巣山などの身近な自然を生かし、地域の魅力向上に取り組む。
城南	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢化率が7区で最も高く、高齢者の社会参加の促進や健康寿命の延伸などに取り組むとともに、お互いに見守り支え合う地域づくりを進める。 ○大学などと連携して、社会課題の解決や地域コミュニティの活性化を図るとともに、将来を担う人材の育成を支援する。
早良	<ul style="list-style-type: none"> ○北部では、西新・藤崎・シーサイドももち地区の機能充実を図るとともに、大学や企業などの集積を生かし、地域と連携した活力あるまちづくりを進める。 ○中部では、ともてらす早良や地下鉄七隈線などを生かし、住民の交流が広がり、快適で便利なまちづくりを進める。 ○南部では、脊振山系などの豊かな自然を生かし、人々が集う憩いのまちづくりを進めるとともに、公共交通の維持・確保に取り組み、地域住民や来訪者の利便性向上を図る。
西	<ul style="list-style-type: none"> ○自然、歴史、文化などの資源を「西区の宝」と位置づけ、次世代に継承していくとともに、離島や市街化調整区域において、農業・漁業の活性化など、地域振興を図る。 ○大学の人材と住民の連携・交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、多様な人々が尊重され、個性を発揮できるまちを目指す。